

羽根田卓也 後援会 会報



第1号
平成25年11月1日

編集発行：後援会事務局
発行者：神谷俊吉
編集長：加茂みきお
連絡先：光生アルミニウム工業(株)内
Tel 80-4491 Fax 80-4100

神谷会長挨拶

この度、羽根田卓也選手の後援会会報を発行する運びとなりました。これまでの後援会の皆様のご支援の賜物と改めて感謝申し上げます。

2020年に東京オリンピックの開催が決定したこの時に、記念すべき初号が発行されます事は喜びの一語に尽きます。羽根田選手のカヌー人生はオリンピックへの挑戦と共にあった事は過言ではありません。

2008年に初めて北京に挑戦し、世界の一流の壁の高さを知り、2012年のロンドンでは日本人選手としてはカヌー界で初めて決勝まで進みました。しかし、真の世界のトップ達の壁の高さを決勝の中でまざまざと見せつけられる、7位と言う結果に終わりました。

羽根田選手は真のトップを目指して日夜練習に励み、長年に亘って心技体を磨いて来ました。そんな彼のひた向きさに感動して後援会の皆様はご支援をして頂いていると存じております。

次はリオデジャネイロで日の丸を掲げる事を公言して、遠く欧州の地で頑張っている羽根田選手を、更に更に支えて頂きたいと心よりお願い致します。

そして、2020年には東京のドーム真ん中で最も高いポールに日章旗を、後援会の皆様と共に眺め君が代を斉唱する夢をこれから7年間持ち続け、羽根田選手と共に歩んでいきたいと思っております。今後とも何卒ご支援の程お願い申し上げます。



平成24年度「羽根田卓也後援会」総会

平成25年度 役員（補充含む）

顧問	三宅英臣	柴田文志	倉知俊彦	久野知英
会長	神谷俊吉			
副会長	横山真久	土居友二	宇野幸伸	加藤勝美
	鈴木利介	神崎恭紀	加茂みきお	背尾直彦
幹事	加納勝彦	小栗金美	黒川照明	小野朝康
	小島哲夫	杉浦栄二	山内達己	青木康之
	福岡守男	塚本直樹	田澤 真	内藤俊巳
	北岡 隆	新美伸介	本田 泉	
事務局長	伊藤隆郎			
事務局員	船坂寿子	澤田和樹	山成正了	西涌 武
会計	横山智子			
会計監査	門田羊生	尾野藤星一		

平成24年度 決算報告

平成24年度「羽根田卓也後援会」決算報告

期間：平成24年4月1日～平成25年3月31日

第2号議案

収入の部		支出の部	
摘要	金額	摘要	金額
前年度繰越金	295,149		
平成24年度 年会費	957,580		
特別会員 (20名×2)	400,000	事務費	9,039
個人会員 (5千×37)	185,000	会費	3,980
個人会員 (1万×18+9,580)	189,580	通信費	1,170
法人会員 (1万×12)	120,000	個人会員 (3千×1)	3,000
個人会員 (2万×2)	40,000	ロンドン五輪応援費	52,820
法人会員 (2万×1)	20,000		
個人会員 (3千×1)	3,000	ロンドン五輪応援費	435,718
ロンドン五輪入賞報告会 会費	385,000	会費	370,985
雑収入	2,011	通信費	45,900
		報費	13,000
		事務費	5,831
預金利息	281	前年度繰越金	1,218,166
合計	1,720,001	合計	1,720,001

平成 25 年 4 月 24 日
会計 横山 智子

監査報告

上記の内容について正確かつ妥当であることを確認しました。

平成 25 年 4 月 29 日
会計監査 尾野藤星一
平成 25 年 4 月 30 日
会計監査 門田 羊生



平成25年度は左記の「平成24年度役員補充」にてご承認いただきました役員体制にて会員の皆様方と共に羽根田選手を応援してまいります。
会員皆様、ご支援をご協力を宜しくお願い申し上げます。

羽根田卓也選手からの近況報告です

ロンドンオリンピックが終わり、早1年が経ちました。

メダル獲得はなりませんでした。皆様の多大なるご支援・ご声援により、7位入賞を果たす事ができました。これは前回の北京オリンピックに比べ、自分の中で評価に値する進歩であり、更には、リオデジャネイロオリンピックに繋がる非常に大きな一歩だと信じています。そして2013年、本年より『ミキハウス』所属となり、次の4年間の最初のステップの年です。

まずは2月に南半球の、暖かいオーストラリアにて強化合宿を行いました。2012年度の反省を冬の間コーチとディスカッションし、本格的な夏期シーズンに向けての形作りを心掛けて毎日トレーニングに励みました。滞在中に行われた「オセアニアオープン」という大会では、準決勝を1位で通過し、決勝は6位という成績でした。

まだまだ課題の残る試合内容でしたが、着実にシーズンへ向けて戦っていける土台ができつつある感触を得る事ができました。

そして4月に行われた「日本選手権兼全日本選抜NHK杯」を皮切りに、2013年度のシーズンがスタートしました。この大会は、私が唯一国内で参加する大会であり、日本代表選考も兼ねた非常に重要な大会でした。過度のトレーニングと急激な気温の変化で、大会前に体調を崩してしまいましたが、集中力といわゆる根性というものでなんとか優勝し、日本選手権9連覇を飾る事ができました。

大会後、すぐに拠点であるスロバキアへ戻り、トレーニングに励みました。スポーツには、トレーニングサイクルというものがあります。それは時期によってトレーニングの



4月 日本選手権兼全日本選抜NHK杯の表彰式

「量・質・種類」を様々に変化させ

ていく事です。1年中、強弱をつけず同じようにトレーニングしても、本当に勝ちたい大会にピークを持っていく事はできません。そのため1年間を計画的に過ごし、1年の中で1番のターゲットとなる大会へ、ベクトルを常に向けていきます。

4月～6月という期間は、1年の中でも非常に大切な期間です。この3ヶ月は、とにかく「量」をこなす期間です。1時間、1秒でもカヌーを漕ぐ事が重要であり、カヌー・スラローム競技において最も重要なファクターである技術を徹底的に磨きました。

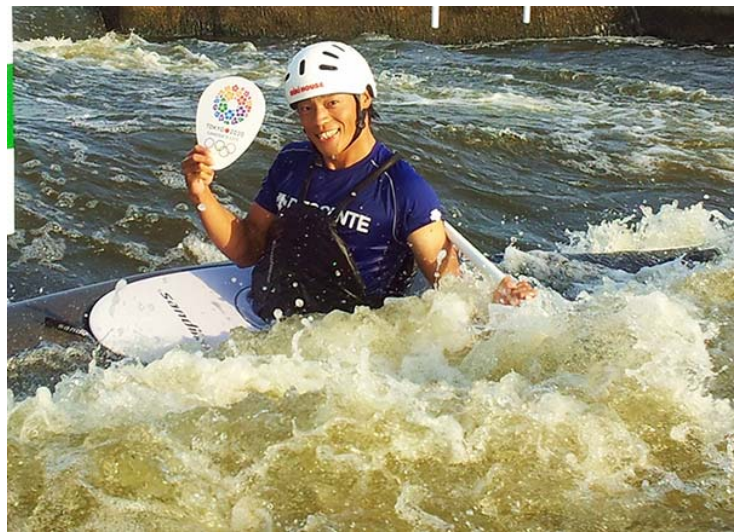
この競技はどんな力持ちでも、激流の中でカヌーを操るバランスやテクニックがないとなんの役にも立ちません。その技術を集中して磨くため、あえて大会などは出ずに、とにかく膨大な「量」をこなす事に専念しました。大会に出してしまうと、調整などをせざるをえなくなり、練習量が減ってしまうためです。この厳しい「量」の3ヶ月を終えると、7月～8月はワールドカップなどの国際大会に出場して、ターゲットである9月の世界選手権へ向けて徐々に試合勘を養っていきました。

ここで非常に重要なのが焦らない事です。大会というものは、出るからには、良い成績を残したいものです。しかし、あくまでこの時期は世界選手権にピークを持っていくための現状を知るテスト。即ち試験段階であるという事です。大会を通して、これから何が必要かを発見又は確認する機会です。成績はスロバキアカップ 7位、チェコカップ 優勝、ワールドカップ第2戦 5位、ワールドカップ第4戦 13位、ワールドカップ第5戦 7位という結果でした。

自分が予想していた実力よりも、成績が出ている印象でしたので、非常に良い感触でした。最終結果だけではなく、予選や準決勝という過程も常に1桁の順位をキープする事ができました。これは非常に良い傾向であり、実力が安定してきている証拠だと自分の中で捉えています。「常に1桁をキープできるという事は、常に表彰台を狙える位置にいれるという事」とコーチからの評価もありました。



6月 チェコカップの表彰式



9月 2020年東京オリンピック招致PRをプラハのコースにて

そして9月のプラハ世界選手権。

ワールドカップなどを通して、非常に自分が良い状態である事に自信がありました。大会前は練習量を落とし、量より質のトレーニングを意識的にこなし調整を行いました。大会前に量をこなして疲れるようなことはせず、ただ体がなまらない程度に調整をして、徐々にメンタルをレースへと作っていきます。

大会期間中、非常に気温が低く、コンディショニングが難しい天候となりました。予選は2本のうち良い成績を取り、上位30人の選手が通過し、準決勝では、その中の上位10人が決勝へと一本勝負で争います。

予選1本目で6位になれたので、体を冷やさず、温存する意味で2本目をパスし、最終的に12位で通過しました。準決勝では非常に良いスタートを切れたのですが、序盤に大きな失敗をしてしまい、後半でも取り戻せず19位に終わってしまいました。

常に動き続ける激流の中での一瞬の判断ミスが命取りになり、それで終わりです。ターゲットとする今大会で、シーズン最低の成績を残してしまったのは、非常に反省すべき点であり、課題が残ります。まさにカヌースラローム競技の厳しさを、改めて味わう大会となってしまいました。

来年の2014年度ではこの反省を十分に活かし、皆様に良い報告ができるよう精進していきたいと思えます。これからも変わらぬご支援・ご声援をよろしくお願い致します。

新副会長就任 御挨拶



豊田信用金庫内の異動によりまして、加藤勝美専務理事から後任を引継ぎ、同後援会副会長に就任させていただきました黒田 連（れん）と申します。

豊田市で生まれ育った唯一のオリンピック選手であります羽根田卓也選手。高校卒業と同時にオリンピック金メダルを目標にカヌーの強豪国であるスロバキアへ単身渡りトレーニングを続ける中で、北京オリンピック14位、ロンドンオリンピック7位入賞という輝かしい結果を経て、次のリオデジャネイロオリンピックでのメダル獲得に向けて頑張っている同氏を応援していきたいと思っております。

又、この度2020年東京オリンピック開催が決まりました。是非、引き続き応援していけたらと思っています。よろしくお願い致します。

加茂編集長 挨拶

平成22年10月、羽根田卓也選手を支援しようと後援会が設立されました。おかげさまでカヌー関係者をはじめ、商工会議所や農業協同組合などの団体、企業、個人の皆様と幅広くご入会を頂き、ご支援を賜り、御礼申し上げます。

羽根田選手は、昨年のロンドンオリンピック以降も引続きスロバキアを拠点に修練に励み、今年開催されたワールドカップや世界選手権で世界を転戦し活躍しております。

羽根田選手がカヌー競技一筋にスロバキアで生活を始めてから、はや7年が経過しました。単身で日本から遠く離れた地での生活は、余程の自己管理と規律ある生活が求められることでしょう。羽根田選手は迷うことなく、また乱れることなくカヌースポーツに没頭して活動しております。その継続して打込む姿は、見事であり立派だと思います。

皆様ご存知の通り、7年後のオリンピック開催地が東京に決定しました。羽根田選手にとって、3年後のリオデジャネイロに続く大きな目標が生まれたことと思っております。

今後とも、郷土出身の羽根田選手の大きな活躍を祈り、メダル獲得の悲願が達成できるよう、継続して皆様とともに支援を続けたいと思っております。会員の皆様には、会員維持と会員拡大のためにお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

事務局からのご連絡

1. リオデジャネイロオリンピックへ向けてのご支援ご協力をお願い
2016年8月5日開催まで あと 1007日 となりました。

より多くの方々に羽根田卓也選手への応援をお願いしたいと思います。 宜しくお願い致します。

2. 今年度会費納入のお願い

平成25年度年会費振込先

豊田信用金庫 本店営業部

普通預金 8986360

羽根田卓也後援会 会計 本田 泉（ホンダ イズミ）

3. 年会費

個人会員	5,000円 (1口) 以上
法人・団体会員	10,000円 (1口) 以上
特別会員	100,000円 (1口) 以上

